

# 商科大學設置の急務

男爵 澁澤榮一君述

我國今日迄教育の進歩は實に甚だしいものでありますけれども、私は未だ此商業教育に付て多少の不足を感じて居ります。此く申し上げましたならば、澁澤は我田引水の説であるといふお小言があるかも知れぬが、決してさういふ積りで申し上げるのではありませぬ。

今日は各種の教育も揃ふて殊に實業教育に付ても現文部大臣、前文部大臣、前々代の文部大臣も頻りに力を盡されたやうに考へまする、唯單に此精神的教育許りでなく物質的教育に充分力を盡されて居るといふことは、決して不足を申上ぐる譯には行かぬでございませう。

併しながら此教育界の斯く迄進んで参りました以前はどうであるかと申しますると、蓋し教育の上に入つたのは多く政治とか、法律とか、或は兵事とかで、商工業等の類に對する教育といふものは世間で甚だ疎したといふことは、二十年の昔を考へますると、事實が證明するのであります。

度々御話申しますることと申しまするが、明治十三年の頃であります、東京府所有で瓦斯局といふものがあつた時分に瓦斯會社の其技師を穿鑿する場合に大學出身のものを瓦斯工場に頼まうとした所が、此技術家及其同級の學生總てが、若し吾々が或は官吏と爲り、教育家と爲るならば、それ位の待遇で行つても宜いのであるが、民業に付くといふことでは、もつと待遇が善くなければ忌やだといふて、一般に其事業に従事すること、私に之に大いに憂慮を懷いて其時の

帝國大學の總長加藤弘之さんにあつて、頻りに歎息の言葉を發しました、今も宜う覺えて居ります。此等に依つて見ても其頃は法科とか、文科とか、政治經濟といふやうな、精神的學問よりも物質に關する學問、農工商に實際に直接に關する學問は、甚だ階級が低いものであるといふやうに、一般に觀察を以て居られたといふことを證據立てらるゝやうに思ふのであります。

元來日本のつと昔のことは申しませぬけれども、例へば徳川三百年の間の政治の執り方、人民の階級の立て方は士農工商といつて、武士であるとか、百姓であるとか、工業や、商業といふものは、一般の位置から低い階級に居るといふことに定められて居つたものでございませぬ。金錢の計算に屬するとか、利益の勘定をするとかいふやうなことは、人の世に處するに於て、最も賤しい事業とされ、商人を賤しいものとし、或は武士は食はねど高揚子杯といふ譬もあつて、總て皆此家財に關係して居る事柄は一般の階級から最も輕蔑したといふことは歴々として證據がございませぬ。

其餘風が維新に至つても尙有つた、前に申しました通り、瓦斯會社に従事する技師が民間の事業であつては好まぬといふことを謂つたのは、即ち其時分の氣風を其人に依つて寫し出したといつて宜からうと思ふのであります。此頃から私共は大いに斯かる風習は日本の將來に取つて國の富を失つて保ち得ることは出来ぬであらうと思ふ、此氣風では日本をして萬國に雄飛して西洋諸國に凌駕するといふやうに假令政治家の口では如何にいふても、事實では、出來ぬものであらうと窺ひましたのであります。

爾來追々に一般の氣風が私共の憂慮する程のことと申しませぬ、前に申述べました通り實業教育杯が大いに擴張され

て、數代の文部大臣が力を盡されて、此擴張整理を圖らるゝやうに相成りましたのは誠に喜ばしき次第であります。私共は未だ商業に對して教育は矢張第二流に置くといふことに現在なつて居るのを甚だ嘆息に堪えませぬのであります。

法科といひ、商科といひ、工科といひ農科と謂ひ、醫科と謂ひ總ての教育に對して、大學が備つてございませぬに拘はらず、商業といふものに於ては、唯高等商業學校といふものに止まりまして、之を大學たらしめぬといふことは大に正當と見ることが出來ぬ、政治なり經濟といふものは即ち商科といふやうなものであるから、經濟の科は大學に於て卒業したならば大學と謂はんでも、宜からうといふ其向きの教育家は、おつしやるかも知れぬが、高等商業學校は決して大學と進めない、して見ますると、商業教育といふものは第二流に置いて宜いと殆ど押し定められた如く、自分らには見えまする、唯斯く申上ぐるといふのは、商人が大層威張、無暗に氣位を高めたといふ積りで申上ぐるのではありませぬ、商人積りものは世の中に立つて、唯無暗に自尊し自負して、愛嬌もなければ謙遜もなくて宜しいとは申しませぬ、況んや商業に付ては人は錙銖の利を争ふものであります、成るべく丈、緻密な頭、なるべく寸細かな才能を養はなければならぬので、決して其人の氣位を高くし、尊大不遜に人を遇するといふことを好みませぬけれども、商人の人格を低くしても宜しい、商人は總ての階級の最劣等であるに宜しいといふやうなことに至ては、私は甚だ悲むのであります。

或は今の商業大學にするに付ては彼れ是れと批難を承ります、例へば今の六大學を七大學にするといふとは、もう既に經濟杯のある以上は、殊更に其處に商科を設けるといふ、必要はないのであるか

の如く聞きますか、又近頃教育は形の上の完備を求むる弊害が多い、商人の位置を這むる方の改畧上から商業教育を商業大學にするといふとは異存ないけれども、兎角教育を形式上のみに依るといふ弊害が多いから、さういふ場合に、殊に今のやうな改正を要することは甚だ好まぬことである如き批難を承ります、又或は茲に申上げました通り、商人は成べく丈緻密なる思想を持ち成るべく丈愛嬌を以て腰を低くし客に接遇すべきものである、餘り教育を高ふるといふと、寧ろ氣立が高ふして、其人の動きをさびやうにするといふ恐るべき害がある、商業はさう高尚なる學問をせんでも用を足するは足りませぬといふ、かく商業大學設置に就て反對説を述べらるゝ人もあるのであります、皆總て私は比喩の反對説は、理あることであると思ふのであります。

## 東洋 西洋

●労働者の負擔五十萬圓以上  
腹が空いて戦争の出來ないのは、何處の國、何處の社會にも同じ事と見えて、英國の労働組合は、其仲間の選挙した議員三十名の爲に、其選挙費用は、六ヶ年間の任期中の費用とを支給する爲に、五十萬圓以上の出費をするのである。勿論英國の議會では議員は無給であるから、これ等の議員は、毎週五十圓許の手當を貰はなくては、仕事も出來ないの理由があるのと同じ労働者を喰ひ物にするのでも、日本の社會主義者云々を説いて、労働者を補助し自分の遊蕩費などをせしめる連中よりは、よほど豪いところがある。

●殺人は二十から四十まで  
兎角人を殺すといふ様な恐ろしい事業は、人間が一番世の中と調音をしてゐる時代に限ると見えて、英國で千八百八十六年から千九百五年までの統計によると二十歳以下で人を殺したものは、僅五十七人で、五十歳以上の人は八十二人しか無いといふことである。學者が、人間が殺人の罪惡を犯すのは多く二十歳から四、五歳までの間だといつたのもたしかに一理あることである、つまり日本の所謂厄年から厄年の間に當るの如きである。

●巡査員女子にも勤まる  
白耳鐵の警視總長パンウエツセマーカ氏の説によると、警視官は、非常なる腕力を要する場合もあれど、また、綿密なる注意があるなら、腕力はさまで必要でない方面があるから、この點に、女子を用いたなら、却て好成績を擧げることが出来るに違ひないといふことで、同國政府も、成程この説を容れ、兎も角も明年より、十二名を登用して保安事務に當らしむる事とし、其實格の一たる年齢の制限は未婚者若くは寡婦にして、五十歳内外の婆さんと定めたのである。我國にも女の巡査は頗多であり、五十歳前後を改めて、二十歳前後のを任用して風俗係にでもしたら一層珍妙であらう。

●二十八億圓の大資本  
平和會議が開かれるからと謂つて、錠前をばつして各氣な氣は出來ぬらしい。千八百九十八年に第一回平和會議が開かれた後に、歐羅巴各國をひつくるめて勘定をたてると、陸軍費に於て、五億四千萬圓海軍費に於て二億圓、合して七億四千圓で、昨年の總額は陸軍で二十億圓、海軍で八億圓、合して二十八億圓であるから、つまり二割六分の増加とは、如何も平和會議も當になりやうもない。そして、この増加額は百八十五億圓で大資本に對する四分の利子に相當するといふことで、國と國との喧嘩の支度は、さて大したものである。

●救世軍と自殺者の關係  
英國の救世軍本家では、自殺者を防止することに骨を折ることとしたので、米國の同軍も直に策謀して自殺防止に着手し、シカゴ市では、四月上旬から四週間に男女合計二十七名の自殺を思ひ止まらしめて、おのゝ正業に導いたといふことであるが、この自殺企圖者には、金錢の補助を要する者は、極めて少數であつたといふことである。日本にブリス大將が來たとき、其の脚元に跪いて泣き咽んだ若い男女が多かつたとき、聊か殺意の多からんことを心配したが、これならば先づ安心である。

●不届なるお轉婆根性  
歐洲では、近頃二十歳以下で結婚せしめる者が非常に多い、といつて賣口の無いのではない、いづれも大概實約の正札は附いてゐるのであるが、この女どもは、結婚約束だけしておいて、自分自身は勝手許にころがり、男の方から小使金を貰つて勝手放蕩の道樂をするのを以て、その理想的な生活としてゐるのだといふ、不届千萬なる亡國の根性であるが、日本にも、父母から資金を貰つて、最高なる學問を研究するが如く振舞ふて、我儘な活をなし、それを以て若い女心の虛榮心を満足させてゐる女子達、自分そこあたりに彷彿してござるが、これも亦た體に亡國的不届な根性である。